



自主 友愛 好學

薩摩川内市立川内中央中学校

自主 友愛 好學

「自分の声を最初に聞く人は自分」

校長 上栗 博文

以前、朗読家の浜本麗歌さんの講話をお聞きしたことがあります。

「音読と朗読は、正しく、はっきりと声に出して読むことは同じ。大きな違いは、朗読には必ず聞いている人がいること。だから、聞いている人に伝わるように、あらかじめ作品を読み込み、想像して声を出すことが必要。」お話をお聞きして、朗読家としての豊富な経験に基づく、「『伝える』ために大切なこと」を学ばせていただきました。

例えば、「〇〇さんは大声を上げながら廊下を走っているお友達に注意してくれました。」この文を読んで、大声を上げているのは〇〇さん？、それともお友達？、どちらでしょうか？この文だけでは、どちらなのかはわかりません。つまり、文字だけでは伝わらないことがあり、「伝える」ために会話することの大切さが表れています。このことは、大きな社会問題になっているSNSに関わるトラブルにも通じていることです。

また、「聞くことが上手な人は伝えることも上手」、「相手のことを考えて言葉を発する大切さ」など、これまで人と人との関わりの中で自然と大切にしてきたことを改めて思い返すよい機会にもなりました。私たちが朝の挨拶として交わしている「おはようございます」は、「お早くからお疲れ様です」といった相手へのねぎらいの意味で使っていた言葉が語源です。「ありがとう」は「有り難し」というめったにないといった意味の言葉が語源です。つまり、めったにないことをしていただいたという喜びと相手への感謝の思いが詰まった言葉なのです。このように普段から使っている言葉に込められた、相手への思いやりが人間関係の礎をつくるものになるということだと思えます。

この講話で、特に心に残った言葉があります。「自分の声を最初に聞く人は自分」です。相手に対する言葉かけであっても、自分の話は自分の心に大きく影響します。これからの社会を生き抜く上で、大切な要素の一つに自己肯定感があり、これは他者との関わり方で大きく左右されます。自己肯定感の高い人は、他者をよりよく理解し、それを適切に伝えることができます。その伝えた言葉は、相手の心だけでなく、自分の心にもよい影響を与えることになります。逆に、自己肯定感の低い人は、他者との比較で自分の評価を求める傾向が強いです。それを言葉に出すことは、相手を卑下し、攻撃することになりがちです。その言葉は相手の心だけでなく、自分の心も傷つけることになります。

本年度も残り1ヶ月余りとなりました。生徒一人一人が1年間をしっかりと振り返り、進学・進級に向けた準備を整えることができるよう、今後も全職員で支援していきます。その中で、他者への思いやりや自己肯定感を高めることも重視し、生徒同士が相互に協力しながらよりよい学校生活を過ごせるよう努めていきたいと思えます。

令和7年度入学 入学説明会開催 ～小6児童・保護者が参加～

2月20日（木）、来年度の入学生・保護者約400名を招いて、入学説明会を開催しました。前半は、保護者に物品販売や事務手続き等について説明するとともに、児童には校内見学をしてもらいました。後半は、児童・保護者同席のもと、学校案内や中学校生活に関する説明をしました。今年度の説明会は、児童や保護者に中学校生活を具体的にイメージしてもらうため、生徒会役員に「川内中央中学校の生徒の一日」について、発表してもらいました。生徒会担当者との綿密な打合せの下、生徒会役員はプレゼンテーション資料を作成し、説明を行いました。服装規定等の説明の際には、児童・保護者の周りに各生徒会役員が移動し、会場の後方や左右の離れた位置からも制服の着こなし等が確認しやすいようにするなど、発表の工夫も見られました。発表後には、会場から自然と大きな拍手がわきおこる素晴らしい発表でした。

4月には新入生が入学します。夢や希望に満ちた中学校生活がスタートできたらと思います。



学校保健委員会・授業参観（1・2年）・学級PTA

2月21日（金）、今年度最後となる学校保健委員会、授業参観（1・2年生）、学級PTA（全学年）が開催されました。

学校保健委員会には、PTA厚生部の部員の皆さんが集まり、今年度の活動の総括のあと、管理栄養士・公認スポーツ栄養士である鹿児島純心大学の久永まゆみ先生（PTA厚生部長）の講話を聞く機会を設けました。「中学生の心と体を育む食について～子どもの健全な発育・発達のために～」と題して、豊富な資料とわかりやすい説明で、食を通しての子どもたちの心・体の健康について深く学ぶことができました。

また、学級PTAは、生徒の学校生活のことや、進路に関する情報提供、家庭での子どもへの関わり方等、一年間のまとめと次年度へ生かす話し合いがありました。3年生の学級では、中学校生活最後の学級PTAということもあり、これまでの生徒の姿を映像や写真スライドにまとめ、子どもの成長を確認するなど、和やかな雰囲気の中で、心温まる時間を過ごしていました。



居場所・絆づくり

第33回青少年健全育成意見発表会 ～最優秀賞 森田華菜子さん（2年）～

2月9日（日）に開催された第33回青少年健全育成意見発表会（川内ライオンズクラブ主催）において、本校2年生の森田華菜子さんが、最優秀賞に選ばれました。各学校の代表が、ふるさとや平和などへの思いをそれぞれ発表する中、森田さんは、生徒会で取り組んだ「生涯学習フェア」での体験を基に、「私なりの恩返し」という題で、将来、豊かな鹿児島の食文化や人の温かさ等、鹿児島の魅力を伝えていきたいと熱く語りました。本大会を通して、ふるさと鹿児島、そして薩摩川内市を愛し、やがて、地域社会の核として地域を牽引し、支えていく人材が数多く育っていくことを願っています。



何も咲かない寒い日は、下へ下へと根を伸ばせ。
やがて大きな花が咲く。

2月は雪が降ったり、寒さが続いたりした月でした。
学校の花の苗も寒さに耐えながら、春の訪れを待っています。

[川内中央中公式ブログ]
<http://sendaichuo.blog.jp/>

